

「すこやか」のシステム工法／自立と介護の家づくり

有限会社 ケアライフ・システム

〒600-8335 京都市南区吉祥院砂ノ町16

Tel. (075) 693-0333

Fax.(075)202-8455

<http://www.care-life.info>

(2008/7月号)



梅雨も中盤から後半へと移ってきたようです。

集中豪雨や土砂災害のニュースも報じられています。被害にあわれた方々には、ここからお見舞い申し上げます。

梅雨の時期は、当然湿度が高くてカビが生えやすかったり食べ物が傷みやすかったりします。

**結露、カビ、ダニ**については2007/06の『すこやか&スマイル』に掲載しましたが、今回は少し視点を変えて、古の人たちがどのように降り続く雨のことを思っていたのか考えてみます。

『梅雨』は『霪雨』とも書くという話は先月号でしましたが、旧暦五月は『悪月』とも呼ばれたそうです。カビが生えたり食べ物が傷んだりすることは病気につながります。鬱陶しくて気分も晴れません。降り続く雨が天から『禍』を降らせると考えたのでしょうか。

菖蒲や蓬などの薬草を摘んで屋根に飾ったり、袋に詰め或いは丸く固めて飾り付けをして**薬玉(くすだま)**を作り、軒や室内に飾ったりしました。

しかし、一方でこの雨は作物を成長させる『恵みの雨』でもあります。田植えをはじめめるためには欠かせない雨で、だからこそ『さつき忌み』と称して田植え前には早乙女が穢れを払い身を清める習慣がうまれたと考えられます。



※この話題は、本来なら端午の節句のところか先月号の梅雨の話で取り上げておかないといけなかったのですが、紙面の都合で今頃になり申し訳ありませんでした。

京都の梅雨は、祇園祭の宵山の頃に明けると言われています。

梅雨明け直前は雨量が増え豪雨となることが多く、落雷や突風も起こりやすくなります。

**梅雨が明けると夏本番！規則正しい生活とバランスの摂れた食事で元気に夏を乗り切りましょう！！**

## 要望書署名のお礼



先月号でお願いしました、国土交通大臣と厚生労働大臣宛の《**要望書**》に、6月25日の時点で131名の署名ご協力をいただきました。

この場をお借りして**心からお礼を申し上げます。**

私たちは、この病気を正しく理解し、できる限り安全な材料を選び、安心して暮らせる住まいと社会を造っていきたく願っています。

その後も受付は継続しています。まだまだ署名をお送りいただいている方もいらっしゃいます。

どうか一人でも多くの方の署名ご協力をお願いします。URLは <http://yoriyoriko.web.fc2.com/>です。

住宅建材だけでなく、身の回りには安全に疑問を抱くものが数多くあります。

食品では防腐剤や食品添加物。衣類の柔軟材や香料。未知の危険性を隠して、便利さばかりを強調する電磁調理器具等々…。

**化学物質過敏症**を発症されている方の中には、**電磁波過敏症**を併発されている方もあります。

電磁波から健康を守る活動をしている団体も多数あります。チョット生活スタイルを考えてみませんか。

## 京都の7月は「祇園祭」

四条界限では「コンチキチン」の祇園囃子が聞こえてきました。

17日の山鉾巡行や前日の宵山ばかりが強調されますが、1日の吉符入りに始まり、31日の疫神社夏越祭まで、1ヶ月間にわたって各種の神事・行事がくり広げられます。

貞観11(869)年、京をはじめ各地に疫病が流行したとき、神泉苑に当時の国の数66ヶ国にちなんで66本の鉾(もとは先の尖った木の枝で神の憑りつくもの)を建て、祇園の神(主祭神は素盞鳴尊(スサノノミコト)＝牛頭天王(ゴステンノウ))を祀り、さらに神輿を送って災厄の除去を願ったことがはじまりとされています。古くは**祇園御霊会(ぎおんごりょうえ)**と呼ばれていました。疫病の原因は、疫神の仕業であると考えると同時に、政争などに敗れ恨みを懐いて死んだ者たちの祟りであるとも考えられていました。その怨霊を鎮め、慰める行事が御霊会でした。



縄がらみ

9世紀に始まったこの祭礼も時代とともに変遷し、14世紀半ばになると山鉾が登場し、応仁の乱(1467～)の前には58基を数えたと言われています。応仁の乱後暫く中断しましたが、明応9(1500)年に復興し、町籍・名称が確実とされる35基で構成され今日まで続いています。

石見神楽  
八岐大蛇退治



その後も、戦乱や火災等により巡行が中止されたり山鉾が焼失したりしましたが、その都度復興し、現在は32基の山鉾が17日に巡行しています。

### 山鉾巡行

いまでは、山鉾巡行は17日一回ですが、昭和40(1965)年までは、17日に先祭(下の祭)の長刀鉾～船鉾、24日に後祭(上の祭)の北観音山～南観音山が巡行していました。そして、昭和30年までは、先祭の巡行は四条烏丸集合、四条寺町～寺町松原～松原東洞院で解散、各鉾町へのコースで行われ、後祭の巡行は三条烏丸集合、三条寺町～寺町四条～四条東洞院解散、各鉾町へのコースで行われていました。



辻廻し

鉾頭まで高さ約25㍍、重さは10㍍

以上にもなる鉾が、軒すれすれに通る姿は見事でした。特に、寺町松原での辻廻しは、音頭取・屋根方・車方・曳子それぞれの気持ちがひとつになって圧巻だったそうです。



還幸祭

### ☆巡行見るならこのスポット☆

※いまでも各鉾町から四条通りに入るまでと、新町御池で解散後、各鉾町へもどる道中が、屋根方さんが活躍する見所だと思えます。



### 無言詣

17日、神幸祭で3基の神輿は鴨川を渡り御旅所に据えられます。

花街の舞妓・芸妓さんも鴨川を渡りお参りします。

24日の還幸祭まで七日七夜無言で詣でると心願成就するという言い伝えです。この時は知人に会っても、決して口を利いてはいけません。

17日～24日の間、3基の神輿は飾りつけられ四条御旅所の舞殿に据えられます

### 焼山(休山鉾)

記録には残っていますが焼失などの理由でこの3基の山鉾は現在巡行に参加していません。

でも、宵山には御神体をお祀りし一部懸装品のお飾りもしています。大船鉾では祇園囃子の演奏もしています。

大船鉾(新町通四条下ル)、布袋山(蛸薬師通室町西入ル)、鷹山(三条通室町西入ル)